



墓域はいつ、どこまで つくられた？

三内丸山遺跡

第 2 号道路跡・北端周辺調査

特別史跡・三内丸山遺跡で今年の発掘調査が 10 月 31 日まで行われています。第 49 次調査に当たる今回は、縄文時遊館から遺跡のシンボル・大型掘立柱建物などへ向かう第 2 号道路跡の両側を調べています。過去の調査でみつかった環状配石墓や土坑墓について、その構造や形成時期、広がりなどの手がかりが得られると期待されます。



見学コース沿い、来場者ら高い関心

現在の園路は縄文時代の道路の跡「第 2 号道路跡」の上につくられています。1998 (平成 10) ～ 2001 年の調査は、環状配石墓や土坑墓の範囲確認のため行われ、第 2 号道路跡の西側斜面 (地図上の A 地点) に、墓が列状につくられていることが分かりました。

今回の調査は、A 地点の墓の構造や位置、形成時期を詳細に調べることが目的の一つです。

これまでに、ひと抱えもある大きな石を伴った墓、小さないくつかの石を配置した墓 (写真②) などが 20 基ほど見つかっており、墓穴のサイズが異なっていて、つくられた時期が異なる可能性も考えられるといえます。また、ほぼ円形の竪穴建物跡と考えられる遺構も検出しました (写真③)。

これらは、遺跡が最も大きかった縄文時代中期中葉～後葉 (約 5,000 ～ 4,400 年前) につくられたとみられ

ていますが、担当の三内丸山遺跡センター保存活用課・加藤渉文化財保護主査は「土坑墓がつくられた時期や隣接する環状配石墓との関連性を慎重に調べたい」と話しています。

一方、第 2 号道路跡の北側では掘立柱建物跡が見つかっていて、B 地点はその広がり確かめるのが目的です。今回の調査で土器などの遺物が多く見つかっており (写真④)、この地点の西側にある「西盛土」との関連も注目されるといいます。

今回、初めて発掘調査が行われたのが第 2 号道路の北東側 (C 地点、写真⑤) です。西側と同様、北東側にも土坑墓がつくられているのかどうか、遺跡全体の構造を考える上で、非常に興味深いポイントだそうです。

今年の調査は見学ルート沿いにあり、遺跡を訪れた人たちの関心も高かったそうです。



津軽線・油川駅

駅舎に郵便局を併設、窓口業務を一体運営

新青森駅の約 3km 北に位置する JR 津軽線・油川駅 (青森市羽白沢田) の駅舎内に来春、油川駅郵便局 (仮称) が開局し、郵便局窓口業務と駅窓口業務の一体運営を始めることになりました。JR 東日本盛岡支社と日本郵便東北支社が 8 月下旬に発表しました。

両社の共同プレスリリースによると、同駅の近くにある油川郵便局を 2025 年春ごろ駅舎内に移転させて油川駅郵便局 (仮称) を開局し、列車の発車時刻や運賃の案内、遺失物の預かり業務などを実施します。

ただし、精算業務、乗車券類の販売業務は行わない予定です。

油川駅は 1951 (昭和 26) 年の津軽線開通とともに開業しました。2017 年 6 月にリニューアルして現在の

形になり、2023 年 3 月には無人化されて、駅の窓口・事務室だった空間が空いていました。

工事に伴い、駅舎の待合室とトイレが使えない期間が発生するため、ホーム上の待合室や列車内のトイレを使用するよう JR 東日本はご案内をしています。

青森駅と三厩駅 (外ヶ浜町) を結ぶ JR 津軽線は 2022 年 8 月の大雨で蟹田駅 (外ヶ浜町) と三厩駅を結ぶ区間が被害を受け、不通になりました。JR 東日本盛岡支社が沿線の外ヶ浜町、今別町、そして青森県を交えて路線の在り方をめぐり協議し、存続を望む声もありましたが、2024 年 5 月にこの区間をバス・タクシーへ転換することが決まりました。



生徒の発想を引き出して伸ばしたい

顧問・成田由希教諭

青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく⑤9

青森県立青森西高校の「青西おもてなし隊」の顧問に2024年4月、成田由希教諭が就任しました。前任の清野耕司教諭とチームを組んで、生徒たちの指導に当たっています。半年目の手応えと抱負をうかがいました。

◇

「自分たちからはあまり話さない生徒が多いのですが、ミーティングを開いてみると驚くほど多様なアイデアが次から次に出てくる。やりたいことがいっぱいある生徒たちの発想を引き出して、伸ばしていければ」

成田教諭は同校に勤務して5年目で、初めて青西おもてなし隊との接点ができたそうです。「例えば鉄道の撮影が好きな男子生徒がいて、新青森駅を起点にしたJR東日本の『駅からハイキング』企画として、電車撮影ツアーができないか…と考えたり。ダイヤの制約もあり、

なかなか難しいようなのですが、発想の豊かさに驚きました」。一方で、顧問になってみて、青西おもてなし隊がとても多くの活動に携わっていることが分かり、「意外に生徒たちが大変そうだと実感した」といいます。

八戸市に生まれ、学生時代は文学部歴史学科で近世史を学びました。卒業研究は江戸と東北を結んでいた奥州街道について調べたそうです。さらに、ちょうど学生時代の2002年12月、東北新幹線の八戸開業を経験し、開業を契機にまちや人の動きが劇的に変化した経緯を目撃しました。それだけに、2010年12月の東北新幹線全線開通・新青森開業をきっかけに誕生した青西おもてなし隊の顧問就任は感慨深い様子です。

活動で現在、心掛けているのは「できない理由を考えない」ことだといいます。「生徒たちから予想外のアイ

デアが出たとき、『実現できない理由』を口にするのは簡単です。しかし、どうしたらそれを実現できるか、少しでも良い形にできるか、考えるよう努めています」

目下の宿題は、夏の文化祭で集めた「青森のオススメ！」と題したアンケートの集計と分析です。集まった観光スポットや飲食店、お土産に関する情報を取りまとめ、新青森駅などで公開予定です。

「近くにある新城中学校とも連携を深め、互いにより充実した活動を展開していきたい」と期待を膨らませています。



ドラマリーディングクラブ こどもに贈る屋外公演

青森県立美術館

9月28日(土)・29日(日)

青森県立美術館ドラマリーディングクラブによる「こどもに贈る屋外公演Vol.2『詩・恋・歌』」が9月28日(土)、29日(日)両日の午後2時から同美術館で開かれます。17人のメンバーのうち13人が出演に向けて練習を重ねています。

ドラマリーディングはオリジナルの戯曲や文芸作品などを配役のように演じながら語る形式が特徴です。同美術館は2009年にクラブを創設し、これまで30回以上の公演を重ねてきました。

今回の公演は2023年に続き、子どもや親子連れを主な対象として屋外で演じられます。日本の文学作品を下敷きに、学校などを舞台にした恋愛をめぐる小編3編を組み合わせたオリジナル脚本が題材です。



脚本と構成、演出を担当しているのは、弘前市の劇団「SOUTHERN COMFORT」(サザン・コンフォート)を率いる清水司さんです。「ドラマリーディングはデジタル文化の逆の世界。今、生きている人たちのいろいろな言葉に接し、日本語の美しさに触れてほしい」と話します。

クラブの発足時から参加しているという平内町の須藤哲也さんは「見に来てくれた親子連れの方々が、終わった後で『楽しかった』と語り合ってくれるよう、一生懸命に演じます」と台本を読み込んでいました。

観覧は無料。事前に電話かメール、Webフォームのいずれかで申し込み、いす席か敷席が確保されます。申し込みは同美術館パフォーミングアーツ推進実行委員

会事務局(電話017-783-3000、受付時間は平日の午前9時から午後5時)、メールはdrama@aomori-museum.jp、Webフォームは公演案内ページ(<https://www.aomori-museum.jp/schedule/14670/>)からリンクされています。



9月30日～11月4日 長期休館

青森県立美術館は展示替えのため、2024年9月30日(月)から11月4日(月)まで長期休館となります。ご注意ください。



2023年のこども向け屋外公演の様子(青森県立美術館提供)

見学時間 9:00～17:00(入場は閉館の30分前まで)
(GWと6月1日～9月30日は18:00)

休館日 毎月第4月曜日(祝日の場合は翌日)、12月30日～1月1日

観覧料 一般410円(330円)/高校・大学生等200円(160円)/中学生以下無料

※()内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金。展示内容により変更場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット表示で割引特典あり。
(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

お問合せ 〒038-0031 青森市三内丸山305
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365
URL <https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp>



三内丸山遺跡センター

縄文⇄芸術 徒歩約10分
三内丸山遺跡センター ルートマップ 青森県立美術館



青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00(入場は16:30まで)

休館日 毎月第2、第4月曜日(祝日の場合はその翌日)
※企画展開催時、展示替等により変更する場合あり。

観覧料 一般900円(700円)/高校・大学生500円(400円)/小学生・中学生100円(80円)

※()内は20名以上の団体料金
※心身に障がいのある方と付添者1名は無料
※企画展は別料金。

お問合せ 〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244
URL <https://www.aomori-museum.jp>



新青森駅 ⇒ 三内丸山遺跡センター: 循環バス「ねぶたん号」(東口) 18分・300円、タクシー(南口) 約10分・1,000円前後、徒歩約30分
⇒ 青森県立美術館: 「ねぶたん号」(東口) 約11分・300円、タクシー(南口) 約10分・1,300円前後、徒歩約40分

Facebook ページ Instagram アカウント

<ネット情報>

Facebook ページとInstagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ

下さい。また、PDF 版を青森大学社会連携センターの Facebook ページに掲載しています。いずれも、右側の QR コードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・櫛引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943 青森市幸畑 2-3-1 青森大学社会学部 櫛引素夫 電話 017-738-2001 内線 731
shin-aomori@aomori-u.ac.jp



Instagram



青森大学
社会連携
センター

